

私立大学情報教育協会

平成30年度第1回(英語・法律・政治・国際関係・コミュニケーション関係学)分野連携合同会議議事概要  
(英語教育・法律学)教育FD/ICT活用研究委員会  
(政治学・国際関係学・コミュニケーション関係学)グループ運営委員会

I. 日時 : 平成30年8月10日(金) 13:00-15:00

II. 場所 : 私学会館(アルカディア市ヶ谷)5階 穂高東  
東京都千代田区九段北4丁目2-25 (TEL:03-3261-9921)

III. 出席者 : 英語教育FD/ICT活用研究委員会 田中委員長、吉田委員、原田委員、山本委員、  
五十嵐委員  
法律学教育FD/ICT活用研究委員会 加賀山委員長、執行委員、中村委員、高嶋委員、  
吉野委員(ネット出席)  
CCC 政治学グループ運営委員会 昇委員、清滝委員  
CCC 国際関係学グループ運営委員会 林委員、佐渡友委員  
CCC コミュニケーション関係学グループ運営委員会 鈴木委員、菊池委員  
事務局 井端事務局長、森下、中村

IV. 委員紹介

5分野の出席委員から自己紹介が行われた。

V. 昨年度の報告と今年度の検討

1. 事務局より昨年度の事業について事業報告書をもとに以下のように報告された。

平成29年度は、30分野を6グループに再編し教育改善の研究を行った。対話集会では、学力の3要素を高めるためにICTを活用した教育・学修方法の工夫・改善、授業科目の相互改善を促進するための仕組みとICTの活用、ICTによる外部評価モデルの必要性と仕組みを中心に意見交換した。

その結果、①個別の授業科目でICTを活用したアクティブ・ラーニングは進んでいることを確認したが、知識の活用や創造を目指す分野連携によるICTを活用した授業までは議論が進まなかった。②ICTを用いて授業内容を可視化し、教員相互で理解し合う必要性が確認され、教学マネジメントの課題が明らかになった。③学修成果を質保証する手段としての外部評価モデルについては、文系・理系・医療系では総論賛成の意見が多かった一方、被服・美術デザイン分野では創造性の評価に適さないとの意見も出された。

2. 平成30年度の対話集会について

昨年度の振り返りを踏まえ本年度は、①アクティブ・ラーニング(AL)の質向上に向けたICTの活用を中心に、思考力・判断力を高める課題探求型教育の研究 ②ネット上で学内および地域社会・企業などによる外部からの意見を組み入れたオープンな教育改善の仕組みについて実現の可能性の探求 ③学修成果の質保証に向けたビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策について認識の共有 ④多面的に考え、本質を見抜く能力を目指す授業モデルを研究するため、ICTを活用した分野横断的な授業モデルの研究成果を共有する中で、授業のイノベーションを実現していく上での課題、戦略について意見交換 としていく。

3. 対話集会の進め方

① 「話題提供」(1時間30分)と「意見交流」(2時間)の3時間30分を計画している。

② 「話題提供」は以下のような紹介が考えられる。件数は4件以内を計画している。

なお、質疑は話題提供後にまとめて15分程度設けるが、不足する場合は「意見交流」の最初に15分程度設ける。

- \* 知識・技能の活用力・応用力を促進する ICT 活用授業
- \* 問題発見・解決力を高める ICT 活用授業
- \* ICT を活用した事前・事後学修、反転授業、地域連携授業
- \* モバイル・SNS を活用した双方向授業
- \* e シラバス、e ポートフォリオなどを活用した授業の可視化、学修成果の可視化
- \* 授業改善をオープンに議論するポータルサイトの活用など

③ 「意見交流」のテーマは大枠として、以下の中から 3 件程度を考えてはどうか。

- ※ 知識・技能の活用・応用を促進する ICT 活用授業の取り組みと課題
- ※ 問題発見・解決力を高める課題探求型 ICT 活用授業の取り組みと課題
- ※ 双方向授業、事前・事後学修、反転授業、地域連携授業における ICT 活用の取組みと課題
- ※ ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善実現の可能性と課題
- ※ ビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策
- ※ 知識の創造を目指す分野横断型フォーラム授業の必要性と導入の課題

#### 4. 今後の合同会議の検討スケジュール

##### (1) 第 1 回合同会議 (8 月)

- ① 本年度の対話集会の進め方について(事務局より説明)
- ② 話題提供候補の検討  
(ICT を活用した分野別の実践事例又は教育改善提案の候補を選定)
- ③ 意見交流のテーマ検討
- ④ ビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策の検討
- ⑤ 対話集会の開催日時・場所の検討
- ⑥ 参加呼びかけの強化

##### (2) 第 2 回合同会議 (10 月予定)

- ① 開催要項の確定
  - ・ 話題提供者の確定
  - ・ 意見交流のテーマ確定
  - ・ 開催日時・場所の決定
  - ・ 事前アンケートの内容決定
- ② ビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策の検討
  - ・ 各グループでの検討状況の共有
  - ・ 各分野における課題・対応策の整理
- ③ 運営シナリオの検討と役割分担  
※委員主体の運営シナリオを全員で作成

##### (3) 対話集会 (12 月予定)

- ① アンケート結果を踏まえた担当者との打ち合わせによる進め方の確認
  - ・ 時間配分と運営シナリオにおける意見交流の着地目標を再確認
- ② 対話集会の参加についてアンケート回収

以上の説明の後、各分野ごとに「話題提供候補」ほか対話集会の進め方について検討を行った。

#### 5. 話題提供候補の検討

進行役の田中委員長(英語教育)より検討結果について報告を求め、各分野から以下の説明がされた。

##### (1) 英語教育分野

- ・ 教科横断的授業の課題について、外国語のコミュニケーション能力を表す指標である CEFR (セフー

ル) の考え方と学習指導要領の係わり方についての話題提供を検討する。

発表予定者：吉田研作委員

(2) 法律学委員会

- ・ 「ICT を活用し、学生に法律以外の分野を含む社会的な課題を考察させるオープンな教育モデルの試行について」、または、「授業改革の観点から学生の真の学力向上をめざす ICT を活用した実践的な取り組みについて」話題提供を検討する。

発表予定者：中村壽宏委員

(3) 政治学分野

仮題「アクティブ・ラーニングで ICT を活用した教育改善の実践」

- ・ ICT を活用し、事前学修と授業冒頭での確認、事後学修、課題提示と進捗状況確認

発表予定者：清滝仁志委員

(4) 国際関係学分野

- ・ 学生の学力向上を目指し、授業に ICT を積極的に組み入れた改革や、e シラバスの活用等について話題提供を検討する。

発表予定者：佐渡友哲委員

(5) コミュニケーション関係学分野

「学生が学内授業をメディアを利用して公開する取り組みや、地域の活性化のために学生に参画させる考え」、および「クリッカー/グーグル・フォームを用いた大人数講義におけるアクティブ・ラーニング」が紹介された。

発表予定者：菊池尚代委員

その他、以下の意見がだされた。

- ・ 参加教員との意見交流では、真剣に学生の学力向上、能力向上について議論すべきではないか。参加申込時のアンケートに「学生の現状」と「育てなければならない能力」について問い、ICT を活用した取り組みについて意見交流するのはどうか。
- ・ 将来構想部会による今後の高等教育の将来像中間まとめからは、AI 技術の進化に伴う大きな社会変革予想され、大学には教育改革が求められている。教員にはどのように教育プログラムを作っていくかが問われており、対話集会では少し高い視点からの意見交流を行ないたい。
- ・ 意見交流のテーマ案のなかでは、「考える力」の向上特に「問題発見・解決力を高める課題探求型の授業の取り組み」を重視したい。アナログ的な「直観力」の学びについての議論も良い。
- ・ 意見交流では学生の参加を検討してもらいたい。具体的には法学におけるフォーラム型授業の受講学生の参加を検討して欲しい。実践における課題や学生の意見も聞きたい。

話題提供内容については、分野ごとに話題提供シート書式にて提出してもらうこととした。

VI. 対話集会の開催日時、場所についてほか

5分野の委員に諮った結果、

- ・ 対話集会は12月22日(土)14時~17時30分(委員事前打合せは13時)  
会場借用については佐渡友委員(日本大学)、菊池委員(青山学院大学)に確認を依頼した。  
その結果、日本大学通信教育部(市ヶ谷キャンパス)を会場として借用出来ることになった。
- ・ 次回(第2回合同会議)は10月7日(日)13:30~15:30私学会館を予定することにした後、  
会場都合により開催時刻を14:00~16:00とした。